国際会議開催報告

The 36th International Technical Conference on Circuits/Systems, Computers and Communications

(ITC-CSCC 2021, 回路とシステム／コンピュータ及び通信に関する国際会議)

Grand Hyatt Jeju, Jeju-do, Republic of Korea (オンラインとのハイブリッド開催)

2021 年 6 月 28～30 日, <https://itc-cscc2021.org/>

今回で 36 回めとなる ITC-CSCC は、回路とシステム、コンピュータと通信に関する幅広い研究分野を網羅する学術国際会議であり、電子情報通信学会基礎・境界ソサイエティ、The Institute of Electronics and Information Engineers (IEIE)、タイ The Electrical Engineering/Electronics, Computer, Telecommunications and Information Association (ECTI) との共同主催により、毎年、6 月下旬から 7 月中旬の期間で開催されています。本国際会議は、アジア地域における研究者の交流を活性化し、広く世界で活躍できる研究者を育成する目的で、当初は、日本と韓国の若手研究者の合同研究会としてスタートし、以後、タイを加えた 3 か国で開催地をローテーションしています。

今年の開催地は、韓国の代表的なリゾート地である済州島でしたが、新型コロナウイルスの影響により、オンラインを組み合わせたハイブリッド形式 (図 1) で運営され、主催の 3 か国に加え、中国、イギリス、米国、パキスタン、サウジアラビアから、329 名の参加者でした。発表論文数は合計 223 件、そのうち、口頭発表が 183 件、ポスター発表 40 件であり、28 のレギュラーセッション、3 のポスターセッション、及び 10 の特別セッションでプログラムが構成されました。特別セッションでは、下記のとおり、システム数理と応用や、データサイエンスと AI をテーマにした合計 46 件の発表がありました。

- ・ WEIE Workshop
- ・ Emerging Technology
- ・ Machine Learning in Computer Vision
- ・ Mathematical Systems Science and its Applications

- ・ Advanced Data Storage Technology
- ・ Data Science and Artificial Intelligence
- ・ Recent Progress on Antennas and Microwave Technologies
- ・ Semiconductor Standardization

全体企画の Plenary Talk として、中央大学の牧野光則教授による“Trends in Engineering Education and Quality Assurance in the 21st Century” (図 2) と、タイのチェンマイ大学の Yuttana Kumsuwan 教授による“Common-Mode Voltage Mitigation by Modulation Techniques for Voltage Source Converters” との、2 件の発表がありました。更に、東京農工大学の田中雄一准教授による“Sampling Signals on Networks: Graph Sampling Theory and Its Applications” を含む 3 件のチュートリアル講演も行われました。

オンラインのオールラウンドセッションでは、発表者は全員、事前にプレゼンテーションを動画収録し、運営本部に送信しました。当日、運営側で、その動画を再生し、その後、リアルタイムで発表者と聴講者が質疑応答する形式となりました。一方、現地会場でのオールラウンドセッションでは、感染対策に万全を期し、適切なソーシャルディスタンスをとり、運営されました (図 3)。現地会場の様子は Zoom を用いて中継され、オンラインで参加している聴講者は、発表後、チャット機能を使って質疑応答する形式となりました。オンラインの参加者は、会議ホームページ上に掲示された各セッションの QR コードまたは URL (ハイパーリンク) から、Zoom へアクセスしました。ポスターセッションも、飛沫対策のためマスク着用を徹底し、活発な意見交換が行われました (図 4)。

図 1 Zoom による Opening Ceremony

図 2 牧野教授による Plenary Talk

図3 現地会場でのオーラルセッション

図4 現地会場でのポスターセッション

新型コロナウイルス感染症の大流行によって、あらゆる研究会や会議の形態を大きく変えざるを得ない状況の中、新たな方策を模索し、中止や延期をすることなく、継続的に会議を開催し、成功させて頂いた全ての運営関係者に感謝いたします。全てのセッションにおいて、活発な議論が交わされ、国際的な研究の発展につながるシナジーを生み出す貴重な機会となりました。

次回 37 回は、2022 年 7 月 5～8 日に、タイのブーケットで開催される予定です。

篠宮紀彦（正員：一般会員）

1995 創価大・工・情報卒。2001 同大学院博士課程了。2000(株)富士通研究所ネットワークシステム研究所入社。情報通信ネットワーク設計と制御技術の研究に従事。2005 創価大工学部専任講師。現在、同大学理工学研究科教授、情報システム工学専攻長、情報ネットワークセンター長。

2014 米国テキサス大学客員研究員。博士（工学）。2015 基礎・境界サイエティ貢献賞。ITC-CSCC2020 Technical Program Committee Chair.